チベット・ネパール国境で土石流 わずか30秒で消えた国境の街

8月26日、中国とネパールの国境にあるチベット自治区シガツェ市ギロン（吉隆）県で、ネパール側から流れ下った土石流が、陸路の出入国拠点である吉隆ゲート一帯を丸ごと飲み込みました。中国側の発表では、発生は中国時間の午前10時半ごろです。被害は一部にとどまるものではありません。出入国審査や税関の手続きを行う合同庁舎は土砂に埋まり、両国を結ぶ国境の橋も完全に流されました。周辺にあった国境貿易用の倉庫や商店の多くが押し流され、ゲートへ通じる道路も通信も電力も断たれて、一帯は一時、外部と連絡が取れない状態になりました。

出回っている監視カメラの映像は、その数十秒をとらえています。駐車場には少なくとも十数台の大型バスが停まっていて、人々が突然、何かから逃げるように一斉に走り出します。その直後、黒い土石流が津波のように山の上から押し寄せます。鉄筋コンクリートの建物も、バスも、コンテナトラックも、数秒のうちに飲み込まれました。高台にあったあずまやまで、一瞬で見えなくなっています。新華社が今年6月に伝えたところでは、この国境を通った人は今年に入って延べ10万人を超えていて、中国とネパールを結ぶ陸路の中でも人と物の往来がとりわけ多いルートです。発生したのは、カイラス山の巡礼シーズンのただ中でした。

濁流は上流のネパール側から来ました。現地時間の午前8時半ごろ、洪水はまずラスワ郡の道路や橋、水力発電所を押し流し、ヌワコット郡のトリスリ一帯では家屋や農地が土砂に埋まって、いくつもの集落が跡形もなくなりました。ヌワコット出身のカルパナ・マラさんはBBCの取材に、「家族が目の前で流されていった。あの人たちには逃げる時間なんて全然なかった」と語りました。マラさんは息子と屋根の上によじ登って助かったといいます。ネパール側の死者と行方不明者は中国側の発表を大きく上回り、その中には20か国以上から訪れていた外国人観光客も含まれています。

中国側の数字は、今後さらに増える可能性があります。国営中央テレビは、26日午後8時時点の暫定集計として、死者3人、連絡が取れなくなっている人が265人と伝えました。ただ、この数字と、現場にいたはずの人の多さとの間には、明らかな開きがあります。疑問の声が上がっているのも、まさにこの点です。

公式発表とは別に、現地を知る人たちがメディアの取材に、自分の見聞きしたことを話しています。



（SNS）

国境の工事現場で働いていたという男性は、自分のいた現場について「数十人が全員、連絡取れなくなってる」「俺が住んでた場所も全部なくなった」と話しました。この男性は8月19日に仕事を辞めたばかりで、たまたま難を逃れたといいます。ゲートの中で働く職員だけでも500人規模はいたはずだとして、「30秒で飲み込まれたんだ。だから千人単位は全然あり得る」とも語りました。現場には四川省出身の作業員が多かったといいます。浙江省寧波の男性は、友人が発生時にゲートから3キロほどの場所にいて、その後連絡が取れなくなったと話しています。チベット・アリ地区プラン県タルチェンの男性は、6月にこの国境を訪れたとき、観光客のほかに大勢の職員や武装警察がいたと振り返りました。ただし、こうした証言に出てくる人数はいずれも個人の見立てで、裏付けは取れていません。公表されている集計とも大きな隔たりがあります。投稿した現場の映像がその後削除されたと話す人も、複数いました。

原因について、ネパールのカナル外相は下院で、当日午前8時37分に起きた地震が大規模な地滑りを引き起こし、それが鉄砲水につながったと説明しました。米地質調査所（USGS）も同じ時間帯に、この地域でマグニチュード4.4の地震を観測しています。地質学者はさらに踏み込んだ見方を示しています。揺れによって標高の高い場所にある氷河と岩盤が崩れ落ち、数百万立方メートルの氷雪と巨岩がレンデ川に一気に流れ込んで、狭い谷の中に天然のダムをつくったというのです。そこに水圧が急激にかかり、ほどなく決壊しました。雨がまったく降っていないのに、泥と石の壁が何の前触れもなく下流に現れた理由はここにあります。雨水が集まってできた洪水ではなく、高い山で起きた崩落が、時間差で下流に届いたということです。

この一帯で土石流が起きたのは、初めてではありません。昨年7月8日にも吉隆ゲートの近くで土石流が発生し、中国側の少なくとも17人が行方不明になっています。当局は、レンデ川の上流には取り除かれていない土砂が川をせき止めたまま残っていて、二次的な洪水の危険は去っていないと注意を呼びかけています。記事の執筆時点でゲートに通じる道路は復旧作業が続いていて、被害の中心部でどこまで捜索が進んでいるのかは、第三者の目で確かめられていません。

（翻訳・吉原木子）

三峡ダム710カ所超の亀裂

今年7月6日、広西チワン族自治区横州市（おうしゅうし）で六藍（ろくらん）ダムが決壊し、多数の死傷者が出ました。この事故を受け、中国では、さらに巨大な水利施設である三峡ダムへの懸念が再び高まっています。そうした中、三峡ダムの内部関係者による告発が相次いで表面化しています。

8月14日、長期にわたり三峡ダムの内部情報を発信しているXのブロガー「羅翔～破幕推牆」は再び投稿し、三峡ダム決壊には「半年前から兆候があった」と主張しました。今年2月に情報提供を受けていたものの、当時は公開しなかったといい、「後悔してもしきれない。まさか本当だったとは夢にも思わなかった」と述べています。

公開されたスクリーンショットには、撮影日として2026年3月1日と記されており、三峡ダム本体のB304L17からF701T44にかけて710カ所以上の亀裂があり、最も幅の広い亀裂は73センチに達しているとされています。また別の亀裂は、幅21センチ、長さ13.5メートルと記されています。

スクリーンショットによると、これらの情報は「丁書記」に報告されていたとされ、内容には現在の三峡集団会長、劉偉平（りゅう・いへい）や、最近「党籍剥奪・公職解任」の処分を受けた元中国共産党中央政治局委員、元新疆ウイグル自治区党委員会書記の馬興瑞（ば・こうずい）の名前も登場します。この「丁書記」について、外部では一般に、中国共産党中央政治局常務委員、国務院副総理の丁薛祥（てい・せつしょう）を指すとみられています。今年6月8日、三峡水運新ルート事業の着工式に出席したのも丁薛祥でした。

これより前にも、同じブロガーは「三峡ダムの内部職員」から寄せられたという告発を相次いで公開していました。この内部関係者は、「横州市で1万7000人が死亡した。それも始まりにすぎない。三峡ダムの決壊は時間の問題だ。死者数は爆発的に増え、被災者は少なくとも4億7000万人に及ぶ」と語っています。さらに、当局はすでに三峡ダム崩壊を想定した分析を行っており、「数百ページに及び、72時間後、1週間後、3カ月後、半年後……と分析され、データは非常に詳細だ」と明かしました。

添付された動画には、「三峡ダム瞬間決壊シナリオ・シミュレーション図」と題する資料が映っており、上海を含む少なくとも29の長江沿岸都市について、影響を受ける人口が記されています。図では、ダムが決壊した場合、洪水のピークはまず湖北省宜昌市（ぎしょうし）周辺に到達し、その後、荊州市（けいしゅうし）、武漢市、安徽省安慶市（あんけいし）、江西省九江市（きゅうこうし）へと順次押し寄せ、1週間以内に影響を受ける人口は約1億3200万人に達するとされています。

こうした告発について、中国当局は現在まで何の反応も示していません。

では、流出したこれらの図面は、単なるネット上のデマなのでしょうか。それとも本当に体制内部から流出したものなのでしょうか。

著名な水利専門家、王維洛（おう・いらく）は、海外の中国語ポッドキャスト「方菲時間（ファンフェイ・シージエン）」のインタビューで、自身の見解を示しました。王維洛は、作図の専門性だけを見ても、これらの図は民間で偽造されたものではなく、三峡集団または水利部長江水利委員会の内部から出た可能性が極めて高いと指摘しています。図面のベースとなっている地図の精度は非常に高く、「グーグルマップでも、中国の北斗地図でも、中国の高徳地図でも、このような地図は入手できない」と説明しました。中国では大縮尺地図が以前から軍によって厳しく管理されているためだといいます。



耐用年数を超えた4万カ所以上のダム……

王維洛はさらに、ある細部に注目しました。図面に示された被災範囲は、ダム地点から上流側にも一定区間延びています。これは、三峡ダム事業について1986年から1988年にかけて行われた実現可能性の検討段階で使われたモデルデータと非常によく一致するといいます。そのため王維洛は、「これらの図は中国（中共）政府が自ら作成したものだ」と判断しています。

王維洛によれば、本当の危険はこうした数字そのものだけではありません。「人々が長期間にわたり、ダムの実際の変位、漏水、変形に関するデータを知ることができないこと自体が、最大のリスクだ」と指摘しています。

著名なメディア関係者、李沐陽（り・もくよう）も、「新聞看點」の番組で同様の見方を示しました。李沐陽は、これらの図が示している情報は、中国共産党にとって重大な秘密である可能性があるとみています。三峡ダムがひとたび決壊すれば、歴史的規模の大災害となり、死傷者は数十万人、場合によっては数百万人規模に達する恐れがあるといいます。言い換えれば、三峡ダムは1億人を超える人々の頭上にぶら下がる剣のような存在だということです。

そして、この「剣」は三峡ダムだけではありません。

Xでは、ブロガーの「李承鵬（大眼哥）」が最近、中国には現在4万カ所を超えるダムがあり、すでに「14億人の頭上にぶら下がる時限爆弾」になっていると投稿しました。中国水利部長の李国英（り・こくえい）が公表したデータによると、2025年時点で、中国には9万4877カ所のダムがあり、その8割以上が1950年代から1970年代に建設されました。このうち、稼働から50年以上が経過したものは4万2000カ所、60年以上のものはさらに2万1000カ所に上ります。その大半は「大躍進」前後の時期に建設された古いダムで、しかも、そのほとんどがアースダムです。

一方、中国の水利当局がアースダムに設定している設計上の耐用年数は50年です。李承鵬は、このことは大半のアースダムがすでに耐用年数を超えて運用されていることを意味すると指摘しています。さらに、メンテナンスも不十分で、「大半が問題を抱えたまま水をせき止めている」としています。中国工程院院士の鈕新強（ちゅう・しんきょう）も、過去に中国で発生したダム決壊事故のうち、アースダムが93％を占めているとのデータを明らかにしています。

中国当局はこれまで、ダム決壊の詳しい状況や件数を国民に正式に公表したことはありません。しかし李承鵬は、中国の水利分野の専門家が示したこれらのデータを見ると、「14億人の頭上には、いつ決壊して水が押し寄せてもおかしくない4万カ所以上のダムがぶら下がっている」とし、これはもはや危機をあおる話ではなく、現実なのだと述べています。

710カ所以上の亀裂、最大73センチの亀裂、耐用年数を超えた4万カ所以上のダム……。こうした数字の背後には、多くの人が知らず、確かめる手段もない実態があります。情報公開と透明性が最も希少なものとなった今、中国の人々は、関心を持ち続け、問い続けるしかなく、最後には自らの命でそのすべてを引き

入国管理局長承認申請取次行政書士 大西勝一 第 11B3-153 号
入管申請
TEL:078-681-5763 090-8190-5528(SB) FAX:078-681-5768

帰化、永住、資格変更全般
不必一個人煩惱
有10 年豐富經驗
成功率高的大西
全力支持您！
本報讀者有優惠
掌握不被拒签的诀窍，制作「理由书」有自信。
大西行政書士事務所 080-3789-1196(SB) 中文
神戸市兵庫区上庄通 2-4-29
神戸地下鉄：和田岬 2 号出口 徒歩 1 分
Mail:officeoo24@yahoo.co.jp
大西勝一

歡迎訂閱《看中國》
半月一刊：280日元（1份） 半年訂閱：2980日元（12份）
全年訂閱：5800日元（24份） 兩年訂閱：10800日元（48份）
半月份一刊，週二發行
ゆうちょ銀行：
店番：018 普通：2589417
名義：カンチュウゴ゛クカブ゛シキカイシャ
電話：06-6809-2939 傳真：06-6809-2939
錯過了這期的《看中國》報紙？
請登錄閱讀電子版：
e-paper.kanzhongguo.com